

前教授からの寄稿

行学一体を目指した製剤学講座 設置10年間の活動

製剤学講座 初代教授 川嶋 嘉明

平成17年3月31日岐阜薬科大学を定年退官後、翌日4月1日に愛知学院大学薬学部製剤学講座の初代教授を拝命した。その後7年を経て、平成24年3月31日には定年退職し、以降も特任教授として本学薬学部での教育研究活動に微力ながら携わっている。振り返ると、あっという間の10年間であった。この間の教育、研究指導目標は、本学の卒業生諸君には、社会に出て胸を張って愛知学院の薬学部出身であると言えるようにすることであった。それに対して本学のモットーである“行学一体”の精神で取り組んだ。具体的には、他大学との差別化を、他大学にはない、東海地区で最も古い本学歯学部との歯薬連携により試みた。ところで、本薬学部は新設で、講座には学生も院生もいない。どのようにスタートするかが難問であった。そこで、他大学や企業からの研究生を受け入れることにした。粉体工学会を通しての知友である愛知工業大学の水野光圀教授にお願いし、愛知工業大学水野研の卒研究生や院生を受け入れ共同研究をすることにした。¹⁾ このプログラムは、予想以上に上手く機能し他に類を見ないユニークな教育・研究を実践できた。中国やタイからの博士研究員を企業の奨学寄付金やJSPSの奨学金により受け入れた。学生と彼らとの交流は、お互いに視野を広めモチベーションを高めるのに役立った。国プロのDDS研究プロジェクトへの歯薬連携参画を歯学部長亀山洋一郎教授(平成18-19年)にお願いしてお力添えを頂いたが不採択で残念な結果であった。然しこれをきっかけとし、続けて野口俊英教授(歯学部長平成19-23年)のご理解を得て山本准教授(現教授)を中心にしたユニークな

歯薬連携研究が進み科研費の獲得にまで至った。国内外の国際会議での招待講演の内最も印象に残っているのは、平成20年に歯学部中垣晴男教授が組織委員長をされた日本歯学会第56回大会を兼ねた本学で初の国際会議での講演を本学講堂で出来たことである。²⁾ 平成21年には、第17回マイクロカプセルに関する国際シンポジウムを名古屋国際会議場で開催することができた。これらの研究成果が基になり、種々の学術賞授与の栄誉に浴することも出来た。³⁾ この10年間での成果は、講座の教育・研究体制作りのレール敷きであった。第2代山本浩充教授によって、行学一体の教育・研究体制がより進化しつつある。

脚注

1. 平成18年: 研究員 Kai Shi (中国) 研修生 愛工大 (2名)
平成19年: 研究員田原耕平 (岐阜薬大) 研修生愛工大 (3名)
平成20年: 研究員孫抄平 (中国) 研修生愛工大 (3名)
平成21年: 研究員勝野貴臣 (BASF)、水谷祐輔 (愛知学院大) 松岡康太 (愛知学院大) 研修生愛工大 (2名) 平成22年: 研究員 Charinya Chankhampan (タイ) 研修生愛工大 (1人)
2. Nanomedical System Developed with PLGA Nanosphere Platform, at Aichi Gakuin University, Kusumoto, Nagoya (Nov. 2008)、他。
3. 日本粉体工学会50周年特別賞(平成18年)、他。